京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

（　3　年計画の　2　年目）

1. 研究課題

（和文）近代天皇制と社会

（英文）The Modern Emperor System and Japanese Society

2. 研究代表者氏名

高木博志

3. 研究期間

2013 年 04 月 - 2016 年 03 月（2 年度目）

4. 研究目的

昨今、歴史研究において、天皇制を国家や社会とのかかわりで考えることが少な くなり、「天皇」個人や「天皇像」といった研究に流れがちである。そのような なかで、単なる政治過程ではない、「近代天皇制と社会」を対象とすることによ り、日本の近現代を考えてみたい。ひとつには明治維新からアジア・太平洋戦争 にいたる過程を、「近代天皇制と社会」から考えることで近代日本の特殊性や普 遍性を再考する。近世後期から近現代までを見通して、町や村といった地域や、 文化・宗教・思想・教育・社会運動・民俗などを視野に入れた広い意味での「社 会」と天皇制との関係を考えてゆく。研究会では、もちろん「政治」の重要性を 否定するものではない。政治史・教育史・文化史・思想史・運動史・美術史・植 民地研究・民俗学・地域史などの諸分野の研究者とともに考えてゆきたい。

5. 本年度の研究実施状況

「天皇」個人や「天皇像」、あるいは単なる政治過程でなく、天皇制を国家や社会とのかかわりで考える問題意識をもって、研究会を積み重ねた。 11 回の研究会では、天皇制をめぐって、陵墓・遙拝所・地域の軍隊・美術など多様な問題を扱うとともに、地域社会における「開化」の拒絶/受容をめぐる論点、朝鮮の東学党へのジェノサイドや御真影のありようの内地との差異についてなど、幅広い議論がもたれた。 7 月 26～27 日には、金沢において、金沢地域の明治維新や軍隊をめぐるテーマの研究報告がもたれ、金沢近郊の行在所跡や師団跡をめぐる巡見をおこなった。さらに 9 月 20 日には佐紀古墳群（奈良市）を考古学者の今尾文昭氏の案内で、陵墓のあり方を介して古代から現代まで「天皇制と地域社会」について研究した。9 月 10 日には、公開の国際研究集会として徐興慶氏による近世から近現代を見通す日中交流史の報告を得た。

8. 共同研究会に関連した公表実績

共同研究会に関連した公表実績 共同研究会参加者の共同研究に関連した著作、編著を掲げる。 ①幡鎌一弘『寺社史料と近世社会』（法蔵館、2014 年 12 月） ②赤澤史朗・北河賢三・黒川みどり編『戦後知識人と民衆観』（影書房、2014 年 6 月） ③John Breen,Mark Teeuwen の共著『 Lo Shinto:una nuova storia『』 , Astrolabio Ubaldini,2014 ④久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編『歴史を読み替える』（大月書店、2015 年 1 月） ⑤高階秀爾・芳賀徹・老川慶喜・高木博志編『鉄道がつくった日本の近代』（成山堂書店、2014 年 11 月） ⑥長志珠絵・高木博志編『「国民」を生んだ帝国の文化』週刊新発見日本の歴史（朝日新聞出版、2014 年 4 月）

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	女性数	総計	外国人	大学院生	若手研究者	女性数
所内	1	6				1	33				5
学内(法人内)	1	4			1	1	16			10	2
国立大学	5	6					25				
公立大学	2	2					8				
私立大学	16	17					70				
大学共同利用機関法人	1	1	1				8	8			
独立行政法人等公的研究機関	3	3					9				
民間機関											
外国機関											
その他	1	1					26	10			5
計	30	40	1	0	1	2	195	18	0	10	12

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	78 (63)
国際学術誌に掲載された論文数	2 (2)

※（　）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載

論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合

役割	
総論文数	()
国際学術誌に掲載された論文数	()

※（　）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載

高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合

掲載雑誌	**掲載論文数**	**主なもの**	
		論文名	**発表者名**

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

理由		人文社会系の学会誌や共同研究書に掲載された論文である。	
掲載雑誌	**掲載論文数**	**主なもの**	
		論文名	**発表者名**
岩波講座『日本歴史』近代２（岩波書店）	1	伝統文化の創造と近代天皇制	高木博志
『歴史評論』771	1	陵墓と朝廷権威—幕末維新期の泉涌寺御陵衛士の検討から	上田長生
『日本史研究』624	1	黒板勝美の通史叙述—アカデミズム史学による卓越化の技法と「国民史」	廣木尚
出原政雄編『戦後日本思想と知識人の役割』（法律文化社）	1	藤田省三の戦後天皇制論	赤澤史朗
『史林』第 97 巻第 5 号	1	明治二〇年代における皇室財産運営の特徴及びその変容—御料鉱山を素材として	池田さなえ
『人間文化』38 号（滋賀県立	1	湖東地方における複数村落による神社	市川秀

大学人間文化学部）		祭祀	之

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す